

## 所管事務調査「交通政策について」

### I これまで（H29～H30年度）の取り組みについて

#### 1. 取組概要

・『北九州市地域公共交通網形成計画』に基づく都市形成の基盤となる『BRTやLRT等の次世代都市交通網』の導入など、持続可能な地域公共交通網の形成に向けた調査を実施

- 先進事例都市の調査
- 拠点間BRT形成に向けた検討
- おでかけ交通について

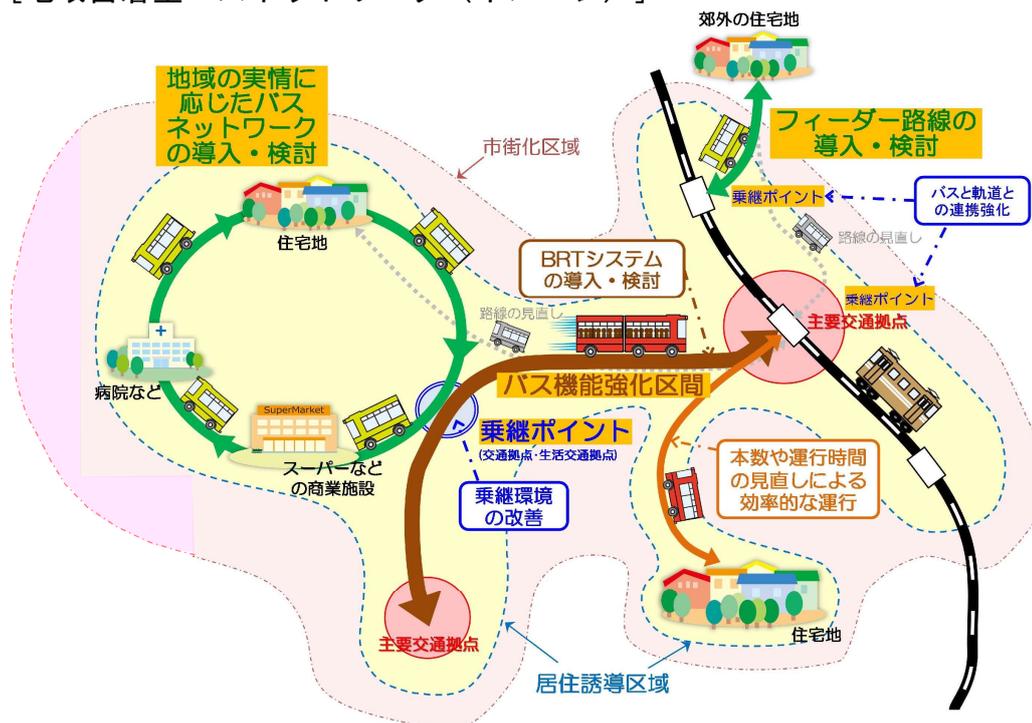
#### 2. 北九州市地域公共交通網形成計画（北九州市環境首都総合交通戦略）について

**[目的]** 人口減少社会に対応した持続可能な公共交通ネットワークの再構築を図ることを目的とし、北九州市立地適正化計画との連携を図り、都市交通分野の取り組みを戦略的に推進していくもの

**[内容]** 総合交通戦略で設定した30の交通施策について、意識、公共交通、道路交通の3つの分野で取り組みを充実させ展開

特にバス交通については、都心部の余力ある輸送力を周辺部に分散させ、効率化を図るなど、人口減少社会の到来を見据えたバス路線の再編を行い、地域密着型バスネットワークの提供を進める

#### [地域密着型バスネットワーク（イメージ）]



### 3. 調査内容

#### 1) 先進事例都市の調査（新潟市のバスに関する取り組み）

新潟市は、持続可能な公共交通体系の構築を目指すため、都心アクセスの強化策として、平成27年度にBRT導入によるバス路線の再編を行った。

《再編後》 郊外部の路線が充実

高齢者割引（市内の65歳以上対象の「シニア半わり」）を開始

|   |        |           |
|---|--------|-----------|
| ⇒ | 開業後1年目 | 前年比の0.8%増 |
|   | 2年目    | 1年目比2.5%増 |
|   | 3年目    | 2年目比2.3%増 |

郊外部の生活交通については、

☆ 路線バス（33路線）、区バス（13路線）、住民バス（15路線）で形成

☆ 人口密度が低く、公共交通分担率も7.5%と低いため、概ね全路線において収支は赤字

☆ 赤字額は概ね全額市が補填し、公共交通を維持している

（運行補助や高齢者割引制度などに年間約6億円近くの予算を投入）

本市においては、BRTの導入やフィーダーバス路線の設置、乗り継ぎ拠点の整備など、複数の事業を一体的に進めることが重要であることから、その部分について、新潟市の取り組みを参考にしたいと考えている。

#### 2) 拠点間BRTの検討状況について

拠点間BRT：バス機能強化区間に幹線バスとして連節バスを導入し、路線バスとの乗り継ぎ強化に加え、定時性、速達性を向上させる専用走行空間を備えたシステム

- ・人口減少、超高齢社会、乗務員不足に対応した持続可能な公共交通ネットワークの形成を図るため、小倉～黒崎間を中心に拠点間BRTの形成に段階的に取り組むこととしている
- ・平成30年1月に西日本鉄道(株)所有の連節バスを用いて、走行予定ルートにおける交差点での右左折状況や、バス停への正着状況などの走行確認を実施

《結果》 32交差点中、5交差点で、区画線の逸脱など

74停留所中、51停留所で横断防止柵が支障などの課題を確認

《対応》 今年度の運行ルートについては改良を実施済

連節バス導入の概要：

事業主体 西鉄バス北九州株式会社

総事業費 約10億円

全体計画 平成31年度（令和元年度）に2台、令和2年度に4台、令和3年度に4台の計10台を導入予定

運行ルート 平成31年度は小倉～黒崎間及び小倉～戸畑間で運行予定

### 3) おでかけ交通について

おでかけ交通：バス路線廃止地区やバス路線のない高台などにおいて、地域住民、交通事業者、市がそれぞれの役割分担のもとで連携し、ジャンボタクシー等を運行するもの

#### 【現行の支援策】

車両調達等の費用、試験運行や本格運行に要する費用の一部に対して助成

- ・ 運行開始時に要する費用に最大460万円を助成
- ・ 車両更新時に要する費用に最大300万円を助成
- ・ 運行収支が赤字の際に、赤字額の一部を助成

平成29年10月に、第一交通産業（株）の黒土始会長から、交通安全対策事業の推進を目的とした寄附を受け、基金を設置、その活用方法の一つとして、おでかけ交通の利便性向上や利用客の増加につながる方策に対して支援を行った

#### 【新たな支援策】 予算額3,000千円（平成30年度）

地域と交通事業者が協働して行う利用促進活動経費を助成

- ・ 定期券を新設、設定額の30%相当を助成し、割引して販売
- ・ 古いバス停のリニューアル
- ・ 時刻表やルート図などを記載したPRチラシ など

## 4. 委員会報告まとめ

平成31年2月の委員会報告書のまとめでは、

今後は新潟市や富山市のような先進事例を更に調査、研究し、本市のニーズにあった内容に改善して施策に取り入れられたい。

交通施策の中でも、フィーダー的なバス路線の構築は大切である。現行のおでかけ交通については、事業者による地域貢献事業としての側面があることも認めざるを得ない。利用促進のためには、地域住民への周知徹底と市の支援方法の調査、研究も必要である。現在のルールでは既に行き詰まっている感があるため、更なる超高齢社会を迎えようとしている中、新たな施策についても検討すべき時期に来ているのではないかと思われる。

また、超高齢社会に対応していくためには、単に人口カバー率を維持するというだけではなく、高齢者にとって利用しやすい公共交通機関が何かということも研究していく必要があると思われる。一部局だけでこの問題を考えるには限界があるため、福祉面からのアプローチや予算面も考慮し、関係部局と連携を図りながら取り組むことが求められる。

今後は、本市が目指す持続可能な公共交通ネットワークの再構築のため、更なる施策の拡充を期待する。

と報告された。

今後、これらのご意見を踏まえ、持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向け、地元の方々や交通事業者とともに、連携して取り組んで参りたい。

(参考) 行政視察

○ 平成29年5月17日 富山県富山市

富山市では、人口減少や超高齢社会に対応した持続可能なまちづくりを進めるため、鉄軌道(LRT)をはじめとする公共交通を活性化させ、沿線に居住、商業、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指している。

○ 平成29年5月18日 石川県金沢市

金沢市では、中心部の渋滞解消や、交通弱者への新たな移動手段の提供を目的として、北陸鉄道株式会社に運営委託を行い、コミュニティバス(金沢ふらっとバス)運行事業を導入している。

○ 平成30年5月9日 神奈川県鎌倉市

鎌倉市では、交通需要マネジメント(TDM)施策であるパークアンドライドや鎌倉フリー環境手形等を実施し、成果を上げている。

○ 平成30年5月10日 新潟県新潟市

新潟市では、超高齢社会、環境問題、まちなか再生などに対応するため、過度にマイカーに依存しなくても誰もが移動しやすい交通環境の実現に向けた取り組みを進めている。

バス路線については、中心部を走る骨格幹線をBRT、郊外部のフィーダー交通は、路線バスとそれにつながる区バス、住民バスが運行を担っている。

## II 拠点間BRTの導入について

### 1) デザインの決定

連節バスは、北九州市民に愛され、来街者を含む利用者にとってわかりやすいバスにするため、西鉄バス北九州(株)が車両デザインの公募を行ったところ、43件の応募があり、そのうちから絞り込んだ3案で市民投票を行った結果、下記デザインが採用された

左側面



右側面



#### 《デザインコンセプト》

“北九州市の文化や伝統を身近に”をコンセプトに、江戸時代初期、豊前小倉藩（北九州市）で織られた「小倉織」をモチーフとし、市花である「ひまわり」「つつじ」の花びらをイメージ

後面



前面



#### 《選定過程》

- デザイン公募 公募期間：平成30年10月9日～11月16日  
応募総数：43点
- 市民投票 投票期間：平成31年 1月10日～1月21日  
投票方法：WEB投票、投票箱（市内14箇所）  
投票数：2,679票

### 2) 内覧会の実施について

日程：平成31年4月17日（水）

13時00分～ 開式、表彰式

13時20分～ 概要説明、車両内覧会

場所：小倉城大手門前広場（観光バス駐車場）

### 3) 今後のスケジュール

平成31年4月23日 試験運行（昼間帯） ※予備日（24日）

一般交通がある中での走行確認

令和元年夏

運行開始

■平成31年度 連節バスの運行概要

|              |                     |                |
|--------------|---------------------|----------------|
| 運行主体         | 西鉄バス北九州（株）          |                |
| 運行区間         | 小倉～黒崎間（砂津～黒崎バスセンター） | 小倉～戸畑間（砂津～戸畑駅） |
| 運行距離         | 約 12.8 km           | 約 9.2 km       |
| 停留所数         | 15 停留所              | 11 停留所         |
| 運行時間<br>（予定） | 7時～22時（5～8往復）       | 朝ラッシュ時間帯（1往復）  |

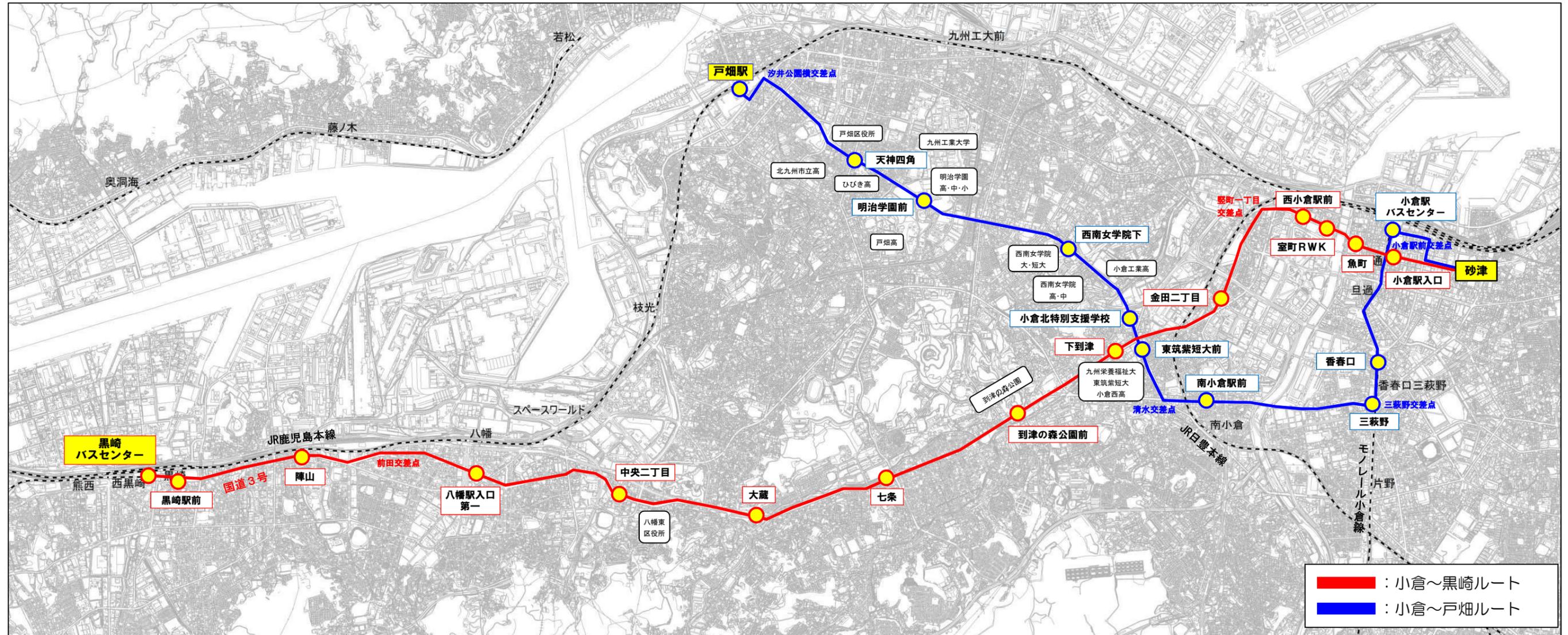
運行車両：連節バス（メルセデス・ベンツ製「CITARO-G」）



〈連節バス諸元〉

| 項目     | 連節バス   | 参考     |        |
|--------|--------|--------|--------|
|        |        | 高速バス   | 路線バス   |
| 全長     | 18.17m | 11.99m | 11.26m |
| 全幅     | 2.55m  | 2.49m  | 2.49m  |
| 客定員    | 約130人  | 55人    | 78人    |
| 最小回転半径 | 9.6m   | 10.4m  | 9.2m   |

■運行ルート及び停留所



※現在検討中のルートであり、運行開始時には変更となる可能性があります。